

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

吹奏楽部に入部した「僕（基）」は、幼なじみで吹奏楽部部長の「玲於奈」や同級生の「堂林」とともに、練習に励んでいた。そこへ、卒業生で全日本吹奏楽コンクールに出場した経験を持つ「不破瑛太郎」が、コーチとして招かれる。本文はそれに続く場面である。

吹奏楽部に新入部員が多く入り、しかもコーチとして不破瑛太郎がやって来て、ひと月。部は調子づいていた。

「ねえ、基」

口元に笑みを浮かべたまま、玲於奈は基を見た。

① 今年は何も行けるよ、全日本」

「まだ演奏する曲すら決まってるじゃないじゃん」

玲於奈がはしゃいでいるのが、声からよくわかる。

「だって凄くない？ 全日本のステージに立った人がコーチに来てくれたんだよ？ 親の反対押し切って部長になった甲斐があるってもんでしょ」

《部長》という言葉をおしそうに口にした玲於奈の足取りは、軽い。

正門をくぐって真っ直ぐ第一音楽室まで行くと、窓際で堂林がすでに練習していた。一つの音をメトロノームに合わせて^(ア)タンネンに伸ばし、一つ高い音、また一つ高い音へ。地味な基礎練習をひたすら繰り返している。

朝の自主練に来ていた部員は十人ちよつとだった。吹奏楽部は総勢六十四名だから、朝練に参加しているのは二割程度だ。その上、楽器の音よりお喋りの声の方が多く聞こえる先輩もいた。

黒板の横に貼られた模造紙には「一音入魂！ 目指せ！ 全日本吹奏楽コンクール」という部の目標が書いてある。

② いくらなんでも酷すぎるだろ、あの朝練」

弁当を広げる基の前の席に座って、コンビニのメンチカツサンドを囓りながら、堂林は同じことばかりを繰り返していた。

「瑛太郎先生も、昔みたいにガツンとビシッとやればいいんだよ。^(イ)シヨウジキ、それを期待してたのにさ」

不破先生でなく瑛太郎先生という呼び方を広めたのは、三好先生だ。

「コーチになったばかりだから、いきなりってわけにもいかないんじゃないかな……」

③ 自分の言葉尻がどんどん弱々しくなっていくのは、堂林と同じことを思っているからだろう。瑛太郎がコーチに就任し、一体どんな指導をされるのか、恐れおののきながらも楽しみにしていた。しかし五月に入っても瑛太郎は「今まで通り練習して」と指示を出すだけで、合奏では今年のコンクールの課題曲をひたすらさらっている。あまりにも普通だった。

（中略）

今日は課題曲Ⅰ『スケルツアンド』を合わせると事前に予告されているから、時間をかけて練習することにした。中間部には、アルトサクソによる美しい旋律がある。瑛太郎から「やってみる」と言われたら、完璧に吹きたい。

マウスピースを口に咥えようとした瞬間、背後から笑い声が聞こえた。一瞬だけ振り返って確認すると、池辺先輩と二年生の先輩が明らかに部活とは関係ない話をしていた。越谷先輩がやりわり注意したけれど、本当にやりわりだった。木のざわめき程度だった。

④ 遠くから、きらびやかなトランペットの音が聞こえてきた。これは堂林の音だ。どうやら、理由をつけて一人で練習しているみたいだ。いつそ、僕もそうしちゃうかな、なんて思ってしまう。ここにいたら、自分まで溶けたアイスクリームみたいになってしまいそうで。

^(ウ)モドると、瑛太郎がすでに指揮台の上に置かれたパイプ椅子に腰掛けていた。膝に頬杖をついて、ぼんやりとスコアを眺めている。すべてのパートが集まったタイミングで、普段だったら玲於奈が号令をかける。ところが、それより早く瑛太郎が立ち上がった。

「ちよつと教えてくれないか」

「一音入魂！ 目指せ！ 全日本吹奏楽コンクール」という部の目標を、指さす。

「目指せ全日本、というのはわかる。でも、君等にとっての一音入魂って何だ？」

六十四人の部員を見回して、瑛太郎は言う。

「別に、全員揃って同じ答えを言えというわけじゃない。それぞれがそれぞれの込めるべき魂を持って演奏してるなら、それでいい」それが感じられないから、今話してるんだけどな。瑛太郎の顔にはそんな本音が書いてある。膝にやっていた手を、基は握り締めた。

「君等は、自分の頭の中に『こんな風に演奏したい』という理想はあるか。自分の音と理想を比べて、足りない部分を修正する作業を今日したか？ これから始まる合奏に間に合わせるために必死になったか？」

瑛太郎の言い方は、決してこちらを^(エ)詰問するようなものではなかった。お説教されているわけでもない。強いて言うなら――ソロバートを吹いているようだった。

「全日本に出たいという目標は素晴らしいが、君達には目標があっても理想がない。^(オ)闇雲に目標を追いかけて、追いかけることがマンネリ化して、モチベーションが下がってる」

誰も何も言わなかった。^(五)音楽室ごと、海の底にでも沈められた気分だ。音がしない。シンとした緊張感の中、誰もが瑛太郎を見ていた。みんな、心の底では同じように思っていたのだろう。面白いくらい綺麗に、言い当てられた。

（額賀滯『風に恋う』より）

※マウスピース：管楽器などの、口にあてる部分。

※スコア：指揮者などが使う、全部の楽器のパートが載っている楽譜。

問一 傍線部(ア)～(オ)のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直さない。

問二 傍線部①「今年は絶対行けるよ、全日本」とあるが、このときの「玲於奈」の様子として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新入部員が多く入ったことで、今まで以上に活気あふれる部活に期待する様子。

イ 実力のある人がコーチに来たことで、今後の自分たちの活躍を確信する様子。

ウ 全日本のステージに立った人に、部長として実力を見せたいと意気込む様子。

エ 部員が増えたので、全日本を強く意識して部長としての威厳を保とうとする様子。

問三 傍線部②「いくらなんでも酷すぎるだろ、あの朝練」とあるが、このときの「堂林」の気持ちとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分は地味な基礎練習をしているのに、練習もせず喋る先輩がいる朝練の状況に怒る気持ち。

イ いつまで経っても朝練が基礎練習ばかりなので、指導をしてくれない先輩にいら立つ気持ち。

ウ 貴重な朝練の時間でお喋りをする先輩が多く、それを瑛太郎に言えない自分にあきれられる気持ち。

エ 朝練の参加人数が少なく、お喋りをする人が多いのに誰も怒らない部活全体に焦る気持ち。

問四 傍線部③「自分の言葉尻がどんどん弱々しくなっていく」とあるが、このときの「僕」の思いとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 部活の練習方法については堂林の意見に賛成しているものの、堂林が瑛太郎に文句を言うことに納得していない。

イ 堂林が瑛太郎への不満を持つことに理解は示しているが、実際は今後の瑛太郎の指導方法に期待している。

ウ 瑛太郎がビシッとした指導をすることに賛成しているが、本当はコーチに就任直後では実現できないと諦めている。

エ 堂林のように不満をはっきりと口にはしないものの、本音は今までと違う厳しい練習になることを望んでいる。

問五 傍線部④「いっそ、僕もそうしちゃおうかな、なんて思ってしまう」とあるが、なぜ「僕」はそう思うのか。五十文字以内で説明しなさい。

問六 傍線部⑤「音楽室ごと、海の底にでも沈められた気分だ」とあるが、これは部員たちのどのような様子を表しているのか。四十字以内で説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「失敗学」における基本的姿勢は、私たちの身近で繰り返される失敗を否定的にとらえるのではなく、むしろ①プラス面に着目してこれを有効利用しようという点にあります。

つまり、失敗の特性を理解し、不必要な失敗を繰り返さないとともに、失敗からその人を成長させる新たな知識を学ぼうというのが「失敗学」の趣旨なのです。別のいい方をすれば、マイナスイメージがきまとう失敗を忌み嫌わずに直視することで、失敗を新たな創造というプラス方向に転じさせて活用しようというのが「失敗学」の目指すべき姿です。

失敗体験に積極的に学ぼうとする「失敗学」が生まれた背景には、失敗を恥と考えず、これを真正面から受け止めることで多くのことを学んできた私自身の経験があります。もともと実際には大学で「失敗学」という名の講義を私が行ってきたわけではありません。私自身は、大学ではふだん機械工学という学問を教えています。その中で、学生たちの理解を实のあるものにしようといういろいろ効果的な指導法を考えてきましたが、いわばその過程でごく自然な形で生まれたのが、「失敗学」なのです。

当初、私はこれに特別な名前もつけず、学生たちを指導する際には、その②エッセンスのみを伝えてきました。A、失敗は社会のありとあらゆる場面にあります。機械工学とは無縁のそうした失敗についても目を向け、これを分析するうちに、世の中の多くの失敗もまたこれを真正面から見つめることが、不必要な失敗の防止になり、さらには新たな創造につながるということを知りました。そこで、このエッセンスをあらためてまとめてみようと考えたわけです。

じつは、そのときは「失敗学」という名前は考えていませんでした。立花隆さんとお会いした際、私が失敗についての話をいろいろしたところ、

「それだけ広範囲に失敗を取り上げるんだつたら、『失敗学』というひとつの学になりますね」といわれたので、その言葉を使わせてもらうことにしたのです。

人はなぜ失敗に学ぶ必要があるのでしょうか。「失敗学」の基本的なスタンスでもあるこのテーマを考える上での重要なヒントは、これもまた私自身の体験の中がありました。

学生たちへの指導を通じて痛感したのは、失敗することを決して否定的にとらえてはならないということです。また、教育現場で真に求められているのは、正しい知識の伝達もさることながら、物事に挑戦し、失敗による体感・実感を基にして本当に使える知識を獲得させることです。

機械工学を学ぶ学生たちはエンジニアの初心者、デザインを学ぶ学生はデザイナーの初心者、経済学を学ぶ学生はエコノミストの初心者といえます。そして、どこの教育現場でも事情は同じかと思いますが、彼らのような③初心者の学習と失敗とは、本当に切っても切れない密接な関係にあります。

実際、エンジニアの初心者には、お手本となるサンプルを一切あたえずに自分自身でものをつくらせてみると、誰しもはじめはまともなものなどつくれず、まず間違いなく失敗します。デザイナーやエコノミストの初心者もしかりで、手本を示さず知識のないゼロの状態からデザインなり投資計画なりを立てさせても、まともなものなどできるはずがありません。

このとき向学心の強い初心者ほど、「痛い」「つらい」「損をした」という気分を味わい、強い挫折感を感じるものです。むしろこの挫折感は、あらかじめ手本を示してこれをマネさせる、いわば正解への最短の道を進む指導をすれば避けて通ることもできるのですが、その場合、本人はほとんどなにも得られません。

つまり、どちらの指導方法を探るかで、両者の間に明らかな差が生じるというのが、長年の指導経験で得た答えだったのです。結論からいえば、最初のうちに、あえて挫折経験をさせ、それによって知識の必要性を体感・実感しながら学んでいる学生ほど、どんな場面にも応用して使える真の知識が身につくことを知りました。

この学習方法は、学生たちがそれまで慣れ親しんできた勉強方法とは明らかに異なります。受験用の勉強は、与えられた設問への答えの出し方を最短距離で学ぶ、まさに④合理的学習法ですが、残念ながらこれだけでは吸収した知識を本当に身につけることはできません。とおりのいっぺんの形だけの知識は身につくものの、それは深い部分にまでは根づかず、B 本当の意味での自分の知識として使うことができないからです。

この隙間を埋めるには、やはり体感・実感がともなった体験学習が必要で、失敗することを厭わず、失敗体験を積極的に活用する必要があります。

これは、子どもの教育全般などにもそのままいえます。「こうすれば失敗しない、こうすれば成功する」「これはダメ、あれはダメ」という教育方法では、やはり知識の表面的な理解しかできません。そこに欠落している「深い理解なしには応用力は身につかない」のです。無駄を省いた合理的学習法は好んで使われているものの、その弱点についてあらためて考え直す必要があります。

C

IV
ほとんどなくなりました。その結果子どもたちは、たしかにナイフを使って手を切ることはなくなり「安全」を手に入れましたが、

「小さな失敗を不用意に避けることは、

「の準備をしていることだ」ということを、もつと私たちは知る

（畑村洋太郎『失敗学のすすめ』より 問題作成のため一部改編）

問二 二重傍線部Ⅰ～Ⅴの単語の品詞名としてそれぞれ適切なものを次のア～コの中から一つ選び、記号で答えなさい。

力
連
体
詞

牛
接續

夕
感動詞

ケ
助動詞

コ
助詞

ア
ところが

イ
ある
いは

ウ
したがって

工
さて

オ
た
と
え
ば

ア これから生み出される創造

イ 繰り返された経験からの学習

ウ 過去に整備された安全な環境

工 将来起こりうる大きな失敗

なさい。

ア 具体的なもの

イ 本質的なもの

ウ 典型的なもの

工 原始的なもの

なさい。

エンジニアの初心者が手本となるサンプルを参考にして、ものをつくる。

デザイナーの初心者が手本をマネしながら、デザインをつくる。

受験に向けた勉強で、与えられた設問への答えの出し方を無駄なく学ぶ。

たとえ危険であっても、子どもにナイフを使う経験をあえてさせる。

〔三〕 次の文章は、「小松の僧都そうづ」が京都の鞍馬寺に参拝する場面である。当時は、参拝することで夢に仏様のお告げがあると言われていた。これを読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、小松の僧都と申す人おはしけり。まだ小法師にての折、山より鞍馬へ参り給ひけり。「三日許ばかり参らん」とて、「同じくは七日参らん」とて、参り給ふ程に、三七日に延べて、「同じくは夢など見るまで」とて、百日参り給ふ程に、夢見ねば、二三百日参りて、同じくは千日参るに、⁽¹⁾夢見ねば「さりとては、いかでかさる(a)やうはあらん」とて、二千日参る程に、^(b)なほ夢見ねば、三千日参り歩くに、夢見えず。はかばかしくなるとおぼゆることもなし。「縁^①こそはおはしまさざるらめ。この御寺見むこと、ただ今宵許りなり。ただ三千日、ことなく参り果てたるをにてあらん」とて、行ひもせず、額もつかで、苦しければ、倚より伏して、よく寝入りにけるに、夢に見るやう、御帳みちやうの帷かたびらを引き開けて、「まことに、かく年来参り歩きつるに、^②いとほし。これ得よ」とて、物を賜たべば、左右の手を広げて^③給はれば、白き米をひと物入れさせ給へりを見て、^④驚きて、手を見れば、まことに左右の手に、ひと物入りたり。「あないみじ」と思ひて、「夢見ては、疾くこそ出づなれ」とて、やがて出づるに、後ろにそよと鳴りて、人の気色、足音す。「あやし」と思ひて、見返りたれば、毘沙門の、ほこを持ちて送り給ふなりけり。御顔をば外様に⁽¹¹⁾向けて、矛して、疾く行けとおぼしくて、突かせ給ふと見て、⁽¹¹¹⁾急ぎて出でにけり。

さてより後、ただずるに、をのづから、「物を^(c)食はばや」と思へば、めでたくし^(d)据ゑて、きとは得ぬ。「手もあらばや」と思へば、すずろに出で来。衣も何も着むと思へば、ただ思ふに^(e)従したがひて、さまざまに出で来ければ、せん方もなく、樂しき人にておはしけり。

（『古本説話集』より）

※同じくは：同じことなら

※さりとては、いかでかさるやうはあらん：だからと言って、そのうち夢のお告げがあるはずだ。

※はかばかしくなるとおぼゆることもなし：別にこれといって期待したように物事が良くなるという様子もない。

※御帳の帷：仏壇の前に垂れ下がっている布。

※賜べば：与えるので

※ひと物：手のひらにいっぱい。

※毘沙門：仏教の神。

※すずろに：なんとなく。

※きとは得ぬ：さっと、即座に手に入れた。

※手もあらばや：人手もほしい。

問一 波線部(a)～(e)を現代仮名遣いに改め、すべてひらがなで答えなさい。

問二 二重傍線部(I)～(III)について、動作の主体をそれぞれ次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を何度使ってもよい。

ア 小松の僧都 イ 矛やり ウ 毘沙門 エ 作者

問三 傍線部①「こそ」について、このような語があると文末は終止形からどの活用形に変わるか。適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 未然形 イ 連用形 ウ 連体形 エ 已然形

問四 傍線部②「いとほし」は「かわいそうだ」という意味になるが、なぜそう思うのか。三十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部③「給はれば」の現代語訳として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 身構えると イ いただと ウ 返却すると エ 受け止めると

問六 傍線部④「驚きて」は「目を覚まして」という意味になるが、夢で見た内容を述べている部分を本文中から探し、初めの五字を抜き出さない。

問七 この作品は平安時代に成立したものである。同じ時代に成立した作品を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア おくのはそ道 イ 万葉集 ウ 竹取物語 エ 徒然草

問題は以上です。